

令和5年度 事業報告 (案)

資料2

全国科学博物館協議会

1 管理運営

事項	内容
第1回 理事会	<p>期 日 令和5年7月6日(木)</p> <p>会 場 国立科学博物館 大会議室及びオンライン</p> <p>出席館 出席:19館(監事館を含む) 現地:15館 オンライン:4館</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和4年度事業報告(案)について 2) 令和4年度収支決算(案)について 3) 令和5年度事業予定(案)について 4) 世界自動車博物館会議日本大会特別会計事業計画及び収支予算(案)について 5) 世界自動車博物館会議日本大会実行委員会規程の一部改正(案)について 6) 全国科学博物館協議会常務理事の選任について(案) 7) その他
第1回 総会	<p>期 日 令和5年7月6日(木)</p> <p>会 場 国立科学博物館 講堂及びオンライン</p> <p>出席館 出席者:167名うち現地94名(正会員96館園及び維持会員10団体、購読会員4団体) 委任状提出:78館園・団体(正会員72館園及び維持会員6団体)</p> <p>議 事 次の(1)～(4)、(6)の議事について審議し、承認され、(5)について報告された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和4年度事業報告(案)について 2) 令和4年度収支決算(案)について 3) 令和5年度事業予定(案)について 4) 世界自動車博物館会議日本大会特別会計事業計画及び収支予算(案)について 5) 世界自動車博物館会議日本大会実行委員会規程の一部改正について 6) 全国科学博物館協議会常務理事の選任について(案) 7) その他 <p>海外先進施設調査報告 南阿蘇ルナ天文台 高野 敦史</p> <p>行政説明 「転換期にある博物館行政」 文化庁 文化戦略官/博物館振興室長 高井 絢</p> <p>記念講演 「変革を促す博物館 ～公正な社会の実現にむけて～」 公立ほこだて未来大学 教授 美馬のゆり</p> <p>施設見学 令和5年7月7日(金) 見学先:ロマンスカーミュージアム</p>
第2回 理事会	<p>期 日 令和6年2月21日(水)</p> <p>会 場 滋賀県立琵琶湖博物館及びオンライン</p> <p>出席館 出席:18館(監事館を含む) 委任状提出:2館</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和6年度事業計画及び収支予算(案)について 2) 令和6・7年度の役員館園について(案) <p>その他 令和6年1月に石川県にて発生した能登半島地震に関する報告</p>
第2回 総会	<p>期 日 令和6年2月21日(水)</p> <p>会 場 滋賀県立琵琶湖博物館及びオンライン</p> <p>出席館 出席者:183名(正会員93館及び維持会員5団体、購読会員1団体/会員外参加者2名) 委任状提出:78館・団体(正会員73館及び維持会員5団体)</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和6年度事業計画及び収支予算(案)について 2) 令和6・7年度の役員館園について(案) 3) 世界自動車博物館会議2024実施に向けた進捗報告 <p>その他 石川県能登半島地震に関する被災状況報告など</p> <p>行政説明 博物館振興施策等概要説明 文化庁 文化戦略官/博物館振興室長 高井 絢</p>

研修報告	全科協海外科学系博物館視察研修報告 船の科学館 学芸部 学芸課 学芸係長 和木 美玲
参加報告	ICOM NATHIST コスタリカ年次総会参加報告 国立科学博物館 地学研究部 研究主幹 矢部 淳
紹介	生物多様性情報標準化会議・国際自然史標本保存学会 沖縄大会紹介 大阪市立自然史博物館 学芸課長 佐久間 大輔
講演	「出あい、学びあう博物館をめざして」 滋賀県立琵琶湖博物館 館長 高橋 啓一

2 事業 (1) 研修事業

事項	内容
学芸員専門研修 (アドバンス・コース)	博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集・保管、調査研究、展示、学習支援活動等について専門的、実践的な研修を実施した。 期 間 令和5年11月6日(月)～9日(木) (4日間) 共 催 者 国立科学博物館 内 容 海藻、顕花植物、菌類における標本採集・作製及び収蔵・管理の方法等 参 加 者 6名
オンライン学芸員 専門研修	博物館等に勤務する経験年数の少ない学芸員や職員等の方を対象に、一層の資質の向上を目的として研修を開催し、オンライン (Zoom) のライブ形式にて講義を行った。 期 間 令和6年2月5日(月)、6日(火) (2日間) 共 催 者 国立科学博物館 内 容 国立科学博物館地学研究部の研究活動や標本・資料の収蔵・活用等 参 加 者 37名
海外科学系博物館 視察研修	マレーシアおよびシンガポールの科学系博物館における展示技術、学習支援活動等について理解を深め、博物館の充実、発展に資することを目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて、海外視察研修を実施した。 期 間 令和6年1月14日(日)～20日(土) (7日間) 共 催 者 (一財)全国科学博物館振興財団 訪 問 館 クアラルンプール：ナショナル・サイエンス・センター・クアラルンプール、ペトロサイエンス、ザ・ディスカバリー・センター、シンガポール：サイエンス・センター・シンガポール、シンガポール植物園、リーコンチェン自然史博物館 (自由訪問) 参 加 者 19名 (5館、3社)
海外先進施設調査	これからの博物館事業を支えていく若手職員を主として、海外の先進博物館を調査・研究する機会を提供することを目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて実施した。 内 容 2名の調査者が、各自でテーマを設定し、米国の博物館、研究施設等を訪問し調査した。派遣者とテーマ、調査先は以下のとおり。 期 間 令和5年9月17日(日)～28日(木) (12日間) 調 査 者 福井県立恐竜博物館 関谷 透 テ ー マ 「自然系博物館における実用的かつ効率的な標本の分類・管理・配置方針の確立」 訪 問 館 ワイオミング恐竜センター (WDC)、カーネギー自然史博物館、国立自然史博物館 期 間 令和6年1月9日(火)～18日(木) (10日間) 調 査 者 新江ノ島水族館 なぎさの体験学習館 笠松 舞 テ ー マ 「展示におけるハンズオン体験とコミュニケーションの効果的な手法を探る」 訪 問 館 ポストンチルドレンズミュージアム、ブルックリンチルドレンズミュージアム、ボートディスカバリーチルドレンズミュージアム、ナショナル水族館 等

(2) 連携促進事業

事項	内容
研究発表大会	科学系博物館に共通する課題や各館の活動成果について発表及び協議し、学芸員等博物館専門職員の活動の一層の充実を目的とし、第31回研究発表大会を開催した。

期 日 令和6年2月22日(木)
会 場 滋賀県立琵琶湖博物館及びオンライン
司会進行 福岡市科学館 高安 礼士、立正大学及び埼玉県立川の博物館 小川 義和
参 加 者 186名うち現地117名(会員外参加者5名)
テ ー マ コミュニティとともに活動する博物館

○口頭研究発表 16件

- ① 総合知を目指すサイエンスコミュニケーション活動に関する共同研究
～全国の科学系博物館における学習支援活動の実態調査～
国立科学博物館 諏訪部 優子・小川 義和・有田 寛之・内海 幸弘
トータルメディア開発研究所 高橋 伸幸・大塚 理恵・高安 礼士
- ② 北九州市科学館における講座等の教育普及活動の事例紹介
北九州市科学館 スペースLABO 吉川 雅大
- ③ 子ども社会参画活動「キッズクルー」におけるサイエンスコミュニケーターの役割
福岡市科学館 林 千恵・西澤 息吹
- ④ 御船町恐竜博物館の継続的学習・探究活動支援への取り組み
御船町恐竜博物館 富澤 由規子・池上 直樹
- ⑤ ワークショップ参加者の現状から考える「これからの博物館」についての一考察
結creation/大阪市立自然史博物館 北村 美香
高槻市立自然博物館 あくあびあ芥川 池田 裕介
- ⑥ 博物館のダイバーシティ&インクルージョンの充実化に向けて～兵庫県立人と自然の博物館の事例～
兵庫県立人と自然の博物館 橋本 佳延・山田 量崇・藤井 俊夫・福本 優
- ⑦ ろう者コミュニティへ展示を届ける～日本手話を取り入れた展示改修事例「ノーベルQ」～
日本科学未来館 佐野 広大・相川 直美
株式会社サンドプラス 今井 ミカ
- ⑧ 手に取って全方向から観察できる昆虫標本容器の開発と活用
姫路科学館 宮下 直也
- ⑨ ワタを育てて機械を動かそう：SNSを通じて資料と繋がる博物館コミュニティ
東京農工大学科学博物館 齊藤 有里加・上田 裕尋・横山 岳・金子 敬一
- ⑩ 新しく発見された吾妻山の慰霊碑を活用した防災教育
磐梯山噴火記念館 佐藤 公
- ⑪ いつものサイピアじゃない…！～淡水研とっしょに科学館を水族館に早変わり～
岡山県生涯学習センター 人と科学の未来館サイピア 岡 成美
- ⑫ Chiba Museumが展開した海洋教育推進プログラムを検証し、
海洋教育推進の新たな将来ビジョンについて提言する
千葉市科学館 新 和宏
- ⑬ 理工系館と自然史館の境界領域に関する事例調査
滋賀県立琵琶湖博物館 戸田 孝
- ⑭ とともに成長する～多摩六都科学館のボランティア活動～
多摩六都科学館 原 朋子・安部 覚子
- ⑮ ボランティア活動を通じたコミュニティとのつながり
はまぎん こども宇宙科学館(横浜こども科学館) 菊地 有由美
- ⑯ 研究団体と歩む半世紀～学芸員の活動の揺籃としてのコミュニティ～
横須賀市自然・人文博物館 内船 俊樹

○ポスター発表 11件

巡回展の実施協力	<p>国立科学博物館製作による巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」、「ダーウィンを驚かせた鳥たち」及び「琉球の植物」、産業技術総合研究所地質標本館製作のパネル展「進化する地質図 -GSJ140 年目の地質情報-」、「美しい砂の世界-日本の砂、世界の砂、地層の砂-」、「日本初！日本列島大分析 元素で見る『地球化学図』」、「祝チバニアン誕生！拡大版-もっと知りたい千葉時代-」、「日本列島ストレスマップ-地震観測とAIで読み解く全国の地殻応力場-」、「時」展覧会2020実行委員会製作のパネル展「『時』展覧会2020」、日本科学技術振興財団の巡回展示「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」の案内周知を行うなどその開催実施に協力した。</p>
科学系博物館ネットワークシステム事業への協力	<p>国立科学博物館が行っている科学系博物館情報ネットワークシステム事業（S-net）について、事業推進に協力した。</p>
事業に対する後援	<p>加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められた事業に対し後援を行った。 10件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「博物館の達人」認定（独立行政法人国立科学博物館、一般財団法人全国科学博物館振興財団） 2) 「青少年のための科学の祭典 2023」各大会 （「青少年のための科学の祭典」各大会実行委員会、公益財団法人日本科学技術振興財団） 3) 夏休みあいちサイエンスフェスティバル2023（国立大学法人名古屋大学） 4) あいちサイエンスフェスティバル2023（国立大学法人名古屋大学） 5) 第40回植物画コンクール（独立行政法人国立科学博物館） 6) デジタルアーカイブフェス2023-デジタルアーカイブで地域の価値を再発見する （内閣府知的財産戦略推進事務局、国立国会図書館） 7) 静岡科学館 企画展「ぼくらの世界を紡ぐ糸」（静岡科学館る・く・る） 8) 千葉県科学フェスタ2023（千葉市、千葉市教育委員会、千葉県科学館） 9) 令和5年度展示学講座（日本展示学会） 10) 世界は「回る」でできている！みる・きく・さわるでグルグル展（静岡科学館る・く・る）

(3) 広報普及事業

事 項	内 容
機関誌の発行	<p>全科協ニュース編集委員会を開催し、特集テーマ等加盟館園にとって有益な情報を掲載するよう内容の充実を図った。</p> <p>「全科協ニュース」を年6回編集発行した（A4判16頁内カラー4頁、2022年まで900部、2023年より850部）</p> <p>第53巻第3号（R5年 5月） 特集：自然史標本を災害からどう守ってゆくか</p> <p>第53巻第4号（R5年 7月） 特集：第30回研究発表大会より 誰もが利用できる包摂的な科学博物館～人々のニーズや社会の要請に応える</p> <p>第53巻第5号（R5年 9月） 特集：地域課題と博物館</p> <p>第53巻第6号（R5年11月） 特集：博物館の資源活用</p> <p>第54巻第1号（R6年 1月） 特集：博物館の周年事業</p> <p>第54巻第2号（R6年 3月） 特集：プラネタリウム100周年</p>
入会案内及び広報活動	<p>全科協ホームページの運営方法と内容を随時見直し、facebookを活用するなどして情報及び内容のさらなる充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全科協ニュース全号の掲載 ・ 理事会・総会の開催通知や各事業の募集案内の掲載 ・ 研究発表大会口頭発表要旨の掲載 <p>他の博物館等協議会や関連企業等と情報交換し、リーフレットを配布するなど全科協への加盟の広報に努めた。</p>